

分野： (1) 小児・成人ぜん息に関する調査
 (2) 乳幼児ぜん息の一次予防に向けた適切な乳幼児健診のあり方の検討

(3)-②

申請課題名：乳幼児健診から探索するぜん息発症の関連因子の同定及び予防への応用

調査研究代表者氏名：山本 貴和子

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	0人	0人	2人	4人	0人	2.33
(3) 研究計画の妥当性	0人	1人	3人	2人	0人	2.83
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						2.58
(6) 総合評価(第2評価)	0人	0人	4人	2人	0人	2.67
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						2.61

2 記述評価
<p>・スキンケア→AD↓→BA↓の予測をするには、BAの主抗原(ダニ)に対してどのように介入していくか、そして感作のバイオマーカーをどう取るかが問題であろう。また、そこにFAがどう関与してくるかも重要なファクターであろう。</p> <p>・計画についての妥当性を再検討し、得られる結果から論理的に結論に到達できる内容かどうかの検討が必要だと考えられる。</p> <p>・今年度の成果であるアンケート票の作成に関して:これまでの研究により、喘息の発症には多くの遺伝因子や環境要因が関係していると想定される。その中で、例えばスキンケアの発症予防に与える影響を明らかにするのは、それが真の要因であるのか単なる交絡因子であるのかをロジスティック解析や層別解析等の手法により統計学的に検討する必要がある。評価者は統計学に詳しくないのでよく分からないが、スキンケアの喘息発症予防に与える影響を明らかにするのは、厳密には、多くの発症に関わると考えられる遺伝因子や環境要因を同じにした対象でスキンケアあり群となし群を比較する必要があるかもしれない。もしそうであれば、今回のアンケート項目にもアトピー性疾患の家族歴やペットの有無等のアトピー性疾患の発症に関わると考えられる多くの因子・要因が含まれているが、仮にこの因子・要因が独立して10個あると仮定して、その陽性と陰性の比が1対1とした場合、同じバックグラウンドを持つ対象は2の10乗に一人、約1000人に一人となり、対象とすべき人数が自ずと莫大なものとなる。陽性と陰性の比が1対1を大きく外れる場合には、少ない比率の方の対象者は遙かに稀となり、アンケートから科学的な結論を得るには膨大なサンプル数が必要となるのではないかと。いずれにしても、今回のアンケート調査から求める結論が得られるのかどうか、アンケート項目や対象者数に関し、統計の専門家の検討が必要と思われる。</p> <p>・今年度の進捗は、十分とは言えないので、内容についてのコメントのしようがない。</p> <p>・次年度以降の年度ごとの、十分な成果に注目したい。</p> <p>・研究期間内の日程達成が可能であるか、やや不安が残る。</p> <p>・研究目的に合わせて調査・解析デザインをより明確にする必要があると考えられる。</p>